

常照

第839号

念仏の咳がでる？

今年夏は夏の終わりからコロナにインフルエンザに、と同時流行の話題が聞こえてきます。風邪と一緒にしよと高をくくつていますが、風邪は万病の元です。ついでに言うとう風邪というのは様々なウイルスによる感染が原因の「かぜ症候群」と呼ばれるもので、病名ではないそうです。

ところで、風邪という話題がでるといつも思いだす言葉があります。

浄土真宗の法話、お説教を聞き、ご法義を大変よろこばれた方を妙好人（みょうこうにん）と呼びますが、妙好人の一人に浅原才市さんという方がいらつしやいます。明治く大正時代の時代を船大工として下駄職人として生きた石見（現在の島根県）の才市さん。この方は四畳余りの作業場で仕事に励んでいた時、ふつと心に浮かんだ言葉をノートに書きとめ生涯約四千の詩を残されました。その中の一首にこんな詩があります。

かぜをひけば、せきがでる

才市が、ご法義の

かぜをひいた

念仏のせきが、でるでる

表現の方法として好き嫌いがあるかもしれないが大変短く、わかりやすく、私なんかはありがたいなあと思うのです。ゴホンゴホンじゃないけれども、ナンマンダブナムンダブと、お念仏のせきがでるのです勝手に。それはご法義の風邪をひいたということの証拠であります。

ご法義の風邪は阿弥陀さまのはたらきそのものです。阿弥陀さまのはたらき（慈悲）に気づかされた時に、「阿弥陀さまのお慈悲は届いておった、身に満ち満ちておった、必ず私を救うと仰っていた、なんとありがたいことであつたか」とこんな心持ちになり、たまらず感謝の思いが、よろこびが、お念仏の咳となつてでてくるのです。お念

仏の咳にマスクは不要です。

風邪はひいたか、うつるのか？

と、ここまで風邪と同じだと譬えてきましたが、しかし、いわゆる普通の風邪と違う部分ももちろんあります。まず、風邪をひいたら安静にして治療しないといけません。治すために。治す事が目標です。

ところが、お念仏のかぜは一度ひいたらそのままです。治らないし治す必要もないのです。古来より人から人、そしてまた人から人へ。風邪がうつり感染し蔓延するがごとくお念仏のよろこびは伝わってきました。そしてこれからも人を介して伝わっていくのです。しかし私たちはお念仏の咳がでているでしょうか？ 違う言い方をすれば人にうつ

せるほどの喜びを持ち合わせているでしょうか？後ろ姿で子は育つと昔から言われてきました。がまさにその通りです。私たちが見てきた後ろ姿と、私たちが見せている後ろ姿は一緒でしょうか？

次の世代が育たない、バトンを渡せないという悩みはお寺とお寺を支えてくださるお檀家さん（ご門徒）の共通の悩みです。独立した子どもはもう戻ってこない、この家は、この仏壇は、この墓は、と嘆く声も聞きます。そこには心のどこかで、「自分の言うことを聞くような子どもに育てられなかった」という自責の念や「こんな大変な思いは子どもたちには託せない、お願いできない」という申し訳なきが胸につかえているのかもしれない。

私の胸の内と腹の中

でもどうでしょう？実はそこには「浄土真宗という教えに出会えてよかった」という思いが欠けているんじゃないでしょうか。厳しいようですが、そう思います。私が、みなさんが「浄土真宗でよかった」と思えば、それは気兼ねなく大事な人に、家族に伝えていけると思うのです。それこそ前述の浅原才市さんは「ご恩うれしやなむあみだぶつ」と何度も何度もノートに書き留めたそうです。それは頭での理解ではなく感動と感謝が混ざりあったような喜びだったのでしょう。だから私たちは才市さんの言葉にハッと息をのみ、胸を震わせるのだと思います。

す。

すぐに伝わらなかつたとしても、潜伏期間というものがあります。ある年齢、ある環境、ある健康状態になった時、「ご恩うれしやなむあみだぶつ」に気づくようになるかもしれません。

まずはお互いが浄土真宗の教えをよろこべる身になること、ご法義の風邪をひくことです。誰かを思い通りに：なんて邪な考えを持つ前に、お互いのみ教えを喜べる身になることです。そのため何をするのか。お寺参りをし、ご法座（お説教）の場で聴聞し、そしてご法義の風邪をひいている人のそばに行くことです、心配しなくてもご法義の風邪も必ず感染します。南無阿弥陀仏。

十二月の常例布教（ご法話）のご案内

○前期 十二月七日（木）～十一日（月）

講師 未定

○後期 十二月十三日（水）～十六日（土）

講師 未定

○場所 小樽別院内

○時間 午後二時（法要終了後）～

午後三時半

浄土真宗のみ教えについて布教使にご法話をして頂きます。
どうぞお誘い合わせ頂き、ご聴聞に来院ください。席の間隔を保ち、換気実施の上、お待ちしております。

発行所

☎047-0017

小樽市若松一丁目四番十七号
本願寺小樽別院

電話 (011-34) 210744番
FAX (011-34) 914080番
テレホン法話 271-1616番